

源氏語り五十四帖

輝きに忍び寄るかげ

幸田弘子(朗読)



三田村雅子(解説/フェリス女学院大学教授)



玉鬘、明石姫君、夕霧が六条院を築立ち、栄耀栄華の極みにある光源氏も、忍び寄る老いに次第に今後の道を考え始めます。難解な古典文学を現代の言葉で身近に蘇らせる三田村雅子さんの解説。そして、紫式部の名文を幸田弘子さんが語る(生きた古典のことは)でお楽しみください。

まさほしら

■ 第二十五回 真木柱

二〇〇五年五月十五日(日)

うめがえ

■ 第二十六回 梅枝

二〇〇五年七月十日(日)

※この公演では物語に登場する重物が会場にて再現され、耳で聴くだけでなく、香で聴く「源氏物語」を体験できます。

協力：高砂香料工業株式会社、株式会社日本香堂

ふじのうらは

■ 第二十七回 藤裏葉

二〇〇五年九月十一日(日)

十四時開演(十三時三十分開場) ※十一時よりホール入り口において整理券を配布します。



会場 彩の国さいたま芸術劇場小ホール
料金 全席自由(各回)2,500円/3回連続券 6,600円
発売日 メンバース優先 3月5日(土)/一般 3月13日(日)
前売・電話予約 彩の国さいたま芸術劇場 TEL.048-858-5511



幸田 弘子
女優

東京生まれ。NHK放送劇団に入り、放送・舞台で活躍。主演した『善見作曲・音楽詩劇「オンディーヌ」』は文部大臣賞、イタリヤ賞大賞受賞。舞台で古典から現代文学作品までの朗読を続け、77年から毎年「幸田弘子の会」を開催、樋口葉を中心に、「源氏物語」や泉鏡花・森鷗外・夏目漱石・瀬戸内寂聴の作品などと、古典から現代まで幅広い作品を舞台で朗読。舞台朗読という新しい分野を確立した功績に対し、81、82、84年と続けて芸術祭優秀賞受賞。さらに84年度芸術選奨文部大臣賞、95年毎日芸術賞、96年紫綬褒章、02年藤村記念歴代賞受賞、国語審議会委員を3期つとめる。99年より「源氏物語」、「おくのほそ道」などによる「古典を読む」会の連続講演も開始している。01年から、「源氏語り五十四帖」と題して「源氏物語」の原文を、影の国さいたま芸術劇場（年6回9年間）で読み始めた。



三田村 雅子
フェリス学院大学教授

東京生まれ。早稲田大学卒業。現在、フェリス学院大学文学部教授、NHK教育テレビ「古典への招待」講師。専攻は源氏物語・枕草子・中世物語。源氏文化と天皇制についても関心がある。著書に「源氏物語 感覚の論理」、「枕草子 表現の論理」（有精堂）、「源氏物語 物語空間を読む」（ちくま新書）があり、96年より雑誌「源氏研究」（翰林書房）を共同で編集している。共著に「源氏物語絵巻の謎を読み解く」（三谷邦明との共著・角川書店）、「源氏物語を読み解く」（秋山慶との対談・小学館）がある。

第二十五回 真木柱 まきばしら

玉鬘の姫君が思いも寄らず、求婚者の中でもっとも無粋な髭黒と結婚することになりました。長年連れ添ってきた髭黒北の方は、式部卿宮の長女で生まれもよく子供も何人かできましたが、玉鬘に心奪われ、自邸に迎えようと必死になる髭黒の姿をみて我慢できず、ついに髭黒の頭の上から香炉の火を投げつける狂乱を演じるまでになってしまいました。父宮に引き取られて実家に戻ることになった北の方が娘を連れていこうとすると、父に可愛いがられていた娘は、父にもこの邸にも愛着があつて、別れの歌を柱に書き付けていくのでした。

第二十六回 梅枝 うめがえ

明石姫君は十二歳で裳着をし、同じ年頃の東宮に入内することになりました。光源氏ははるか昔高麗人がさしあげた綾や香を取り出し、この時とはかりに豪華な嫁入りの準備をさせました。六条院のそれぞれの女房に加えて、光源氏自身も、朝顔の姫君も香を合わせ、その香りを嗅ぎ分けて評価する香合わせの競技も行われました。さらに男君たちには、それぞれ工夫と特色のある「草紙」を書かせ、その書体と中身を觀賞しながら、それぞれの人格と書の関係論を論じる光源氏でありました。

第二十七回 藤裏葉 ふじのうらば

強情を張っていた内大臣も、六年目について折れて雲居雁に夕霧を正式に婿取ることになりました。この日を待ち続けていた夕霧は満足感を噛み締め、二人の人々に歓迎される喜びを噛み締めるのでした。明石姫君の内内にあたりは紫上が付き添って入内しましたが、長く付き添い続けることは困難なので、明石御方に後見の役目を譲り渡し、明石はようやく娘の身近で生活できるようになりました。こうして子供たちの問題が片付いていく中で、光源氏の人望はさらに高まり、ついに准太上天皇の位を奉られるに至ります。息子の冷泉帝も六条院に行幸し、華やかな宴のうち、ひそかに「父」への敬意を表そうとするのでした。

源氏語り五十四帖

今後の公演予定

第二十八回 若菜上 二〇〇五年十二月四日(日)

第二十九回 若菜上 二〇〇六年一月十五日(日)

第三十回 若菜上 二〇〇六年三月十二日(日)

十四時開演(十三時三十分開演)
※土曜より水入り口にて、座席券を配布します。※都合により日程変更となる場合がございます。

彩の国さいたま芸術劇場 埼玉県さいたま市中央区上郷3-15-1 TEL.048-858-5500(代) FAX.048-858-5515

財団法人埼玉県芸術文化振興財団
公式ホームページ <http://www.saf.or.jp/>
チケットセンター 048-858-5511

- 彩の国さいたま芸術劇場メンバーズ
入会申込み受付中
財団法人埼玉県芸術文化振興財団主催公演(彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館)の割引販売などの特典があります。
- 団体購入のお申込み
10名様以上でまとめてご購入の場合は、お得な団体割引があります。
- メンバーズ&団体購入についてのお問い合わせ
彩の国さいたま芸術劇場 TEL.048-858-5507

ご案内

- 開場は開演の30分前です。
- やむを得ぬ事情で公演内容の一部を変更することがございますので、ご了承ください。
- 未就学児の入場はご遠慮ください。
- 2歳児以上の未就学児に対して託児のご予約を承ります。
(お子様一人に対して1,000円の負担金をいただきます。)
- 公演一週間前までに(有)コマーム(TEL.048-256-1666)までお申込みください。(受付時間:月~金9:00~18:00、土9:00~12:00) 定員になり次第締め切らせていただきます。
- 駐車場(有料)は台数に限りがございますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

さいたま芸術劇場までのご案内

